



お経のことば

尊者シャーリプトラよ、私は決して何かを獲得したのでも、
 覚ったのでもありません。(中略) このように、『われわれ』
 は獲得している』、あるいは『覚っている』という思いを生
 じるところの人たち、それらの人たちは、慢心あるものたち
 と言われるのです。

維摩経 観衆生品第7
 訳 植木雅俊

仏教伝来の頃、聖徳太子もその解説書を著したとされている維摩経は、禅問答の発展に大きな影響を及ぼし、また武者小路実篤などの近代の文豪にも深い感銘を与えた大変有名なお経です。

正確な成立年代については不明ですが、おそらく2000年ほど前にできたお経で、西暦250年頃には最初の漢訳がなされています。

さて、今回のお経のことばですが、実は上に紹介しているものはお釈迦様の言葉ではなく、ある天女がお釈迦様の一番弟子の舍利弗(シャーリホフ)に対して言ったものです。

まず維摩経の大まかな構成を説明しますと、そもそも維摩居士とは豊富な財力をもとにそれを貧しい人々のために活かし、貴賤の区別なく様々な人に仏教の感化を起すべく奮闘していた、正に大徳を備えた在家の仏教者です。

ある日、維摩居士は敢えて病に臥せったという方便をとります。そしてその意図がお釈迦様にもテレパシーで伝わって、お釈迦様はすぐさま舍利弗以下10人の弟子達を見舞いに向かわせるのですが、実は以前に維摩居士はその10人を悉く論破していたのでした。10人ともそれがトラウマの如くでありまして、結局誰も見舞いに行けない次第なのです。

続いて、弥勒菩薩・光厳童子・持世菩薩・長者子善徳などにも声がかかるのですが、やはり先の10人と同じなのです。そこで最後は、智慧の菩薩とも呼ばれる文殊菩薩が向かいます。そして、床一つしかない空っぽの小さな部屋にはあらゆる世界が内包され、言語と理性の限界に迫る、摩訶不思議な究極の問答が織りなされるのです。

その空っぽの小さな部屋には不思議にも何百万の見物人が入ることができ、その中に天女と舍利弗は居たのです。そして上の言葉の核心はつまり、空(くう)を表しているのです。

舞台となっている維摩居士の不思議な部屋は、実は空っぽではなくて空(くう)なのです。空とはつまり無限の可能性のことであり、その中ではあらゆる対比は意味をなさなくなります。空の中では、「私が何かを覚る」というその構造、つまり『私』と『何か』という分別がすでに慢心なのです。

例えば日ごろ我々が忌避している悪しきものと判断された諸々、それらは先の通り、不確定の『私』によって不確実な『何か』に仮に意味付けされているに過ぎません。たまには忌避する前に少し止まって、悪しき諸々の本性を見つめてみる、何がどう悪いのかを冷静に考えてみる、そんな『促し』はいかがでしょうか? 俗人成仏の理想を説く維摩経は、俗世に向き合っ



お知らせ

- 7月16日(日曜日) マーダルのコンサート
佐川町の桜座にて、午後2時から。住職も叩いて歌います♪😊
- 9月20日(水曜日) 法話・彼岸会・千体流し
法話では、住職が富士山修行の体験を語ります。
- 毎月28日 柱源護摩供
柱源護摩供は午前9時と午後3時の2回、参加費等無料です。
※葬儀が重なると変更される場合があります。

本山修験宗 大瀧山 護国寺
 781-2155
 高知県高岡郡日高村九頭291
 ☎ 0889-24-7244
 ホームページ gokokuji.site
 仏事に関してのお悩み、ご質問、
 行事に関するお問い合わせ等、
 お気軽にお電話ください。

